

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

JPA 04-321162

(11) Publication number: 04321162 A

(43) Date of publication of application: 11.11.92

(51) Int. Cl

G06F 15/20
G06F 15/40

(21) Application number: 03090734

(22) Date of filing: 22.04.91

(71) Applicant: SHARP CORP

(72) Inventor: MOMOTAKE TATSUHIRO
NAKAO HIROSHI

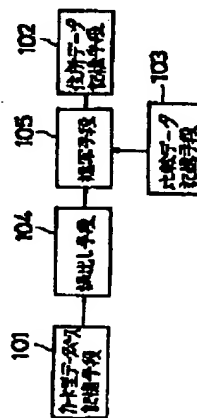
(54) DATA CONVERTER

(57) Abstract:

PURPOSE: To check the item names of a card type data base and to convert the data on the corresponding item name into an address book data base when the data are converted into an address book-only data base from a card type data base.

CONSTITUTION: A card type data base memory 101 is provided together with an address data memory 192, a comparison data memory 103 which stores the comparison data that shows a specific item of the memory 102 corresponding to an item of the memory 101, and a processor. In such a constitution, the processor reads successively the data out of the memory 101 for each card data and checks the item of each read card data. Then the data on the checked item are copied at the position of the corresponding item of the memory 102 by referring to the comparison data of the memory 103.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio



THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-321162

(43) 公開日 平成4年(1992)11月11日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/20	5 2 0 N	6945-5L		
15/40	5 0 0 Z	7056-5L		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平3-90734

(22) 出願日 平成3年(1991)4月22日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 百武 立裕

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ

株式会社内

(72) 発明者 中尾 寛

大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ

株式会社内

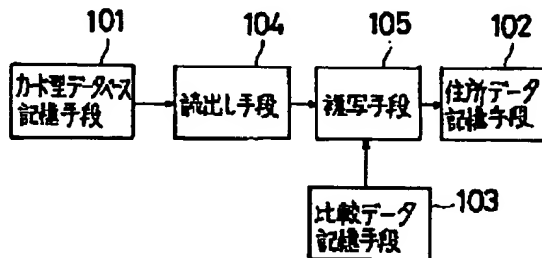
(74) 代理人 弁理士 野河 信太郎

(54) 【発明の名称】 データ変換装置

(57) 【要約】

【目的】 カード型データベースから住所録専用のデータベースにデータ変換を行う場合に、カード型データベースの項目名をチェックし、該当する項目名のデータを住所録データベースに変換する。

【構成】 カード型データベースメモリと、住所データメモリと、カード型データベースメモリの項目が住所データメモリのどの項目に該当するのかの比較データを記憶した比較データメモリと、プロセッサとを備え、プロセッサにより、カード型データベースメモリからデータを1カードデータずつ順次読出し、読み出した1カードデータの項目をチェックし、比較データメモリの比較データを参照することによって、その項目のデータを該当する住所データメモリの項目の位置に複写するよう構成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 郵便番号、住所、氏名等の項目からなる住所データを含む各種のデータをカード型データベースとして記憶したカード型データベース記憶手段と、郵便番号、住所、氏名等の項目からなる住所データを記憶する住所データ記憶手段と、カード型データベース記憶手段の項目が住所データ記憶手段のどの項目に該当するのかの比較データを記憶した比較データ記憶手段と、カード型データベース記憶手段からデータを1カードデータずつ順次読出す読出し手段と、読出し手段によって読み出された1カードデータの項目をチェックし、比較データ記憶手段の比較データを参照することによって、その項目のデータを該当する住所データ記憶手段の項目の位置に複写する複写手段と、を備えてなるデータ変換装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、日本語ワードプロセッサやパーソナルコンピュータなどに用いられ、カード型データベースから住所録専用のデータベースにデータ変換を行うデータ変換装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のデータ変換装置において、一般的なカード型データベースから住所録専用のデータベースにデータ変換を行う場合には、項目の順番が変わるとデータ変換を行っても異なるデータとなって意味をなさないため、データベースのフォーマットに従って項目単位に変換を行うようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このように、データベースのフォーマットに従って項目単位に変換を行うようにするには、カード型データベースの項目名を住所録専用のデータベースのフォーマットに合わせなければならない、という不具合がある。

【0004】 この発明は、このような事情を考慮してなされたもので、カード型データベースから住所録専用のデータベースにデータ変換を行う場合には、カード型データベースの項目名を自動的にチェックし、該当する項目名のデータを住所録データベースに変換するようにしたデータ変換装置を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 図1はこの発明の構成を示すブロック図である。図に示すように、この発明におけるデータ変換装置は、郵便番号、住所、氏名等の項目からなる住所データを含む各種のデータをカード型データベースとして記憶したカード型データベース記憶手段101と、郵便番号、住所、氏名等の項目からなる住所データを記憶する住所データ記憶手段102と、カード型データベース記憶手段101の項目が住所データ記憶手段102のどの項目に該当するのかの比較データを記

2

憶した比較データ記憶手段103と、カード型データベース記憶手段101からデータを1カードデータずつ順次読出す読出し手段104と、読出し手段104によって読み出された1カードデータの項目をチェックし、比較データ記憶手段103の比較データを参照することによって、その項目のデータを該当する住所データ記憶手段102の項目の位置に複写する複写手段105と、を備えて構成する。

【0006】 なお、この発明における住所データ記憶手段102、及びカード型データベース記憶手段101としては、住所データ及び住所データを含む各種のデータを記憶できるものであればよく、フロッピーディスク装置、磁気ディスク装置等の各種の外部記憶装置が用いられる。

【0007】 読出し手段104及び複写手段105としては、CPU、ROM、RAM、I/Oポートからなるマイクロコンピュータを用いるのが便利であり、比較データ記憶手段103としては、その中のRAMや、あるいはフロッピーディスク装置、磁気ディスク装置等の外部記憶装置が用いられる。

【0008】

【作用】 この発明によれば、カード型データベース記憶手段101に記憶された住所データが、住所データ記憶手段102の住所データに変換されるときには、読出し手段104により、カード型データベース記憶手段101からデータが1カードデータずつ順次読出される。

【0009】 そして、複写手段105により、読み出された1カードデータの項目名がチェックされ、比較データ記憶手段103に記憶された比較データが参照されることによって、その項目名のデータが、該当する住所データ記憶手段102の項目の位置に複写される。

【0010】 したがって、カード型データベース記憶手段101に記憶されたデータは、その項目名が自動的にチェックされて、該当する住所データ記憶手段102の項目の位置に複写されるので、変換する項目の順番がどのようになっても、カード型データベース記憶手段101に記憶された住所データを、対応する住所データ記憶手段102の住所データに変換することできる。

【0011】

【実施例】 以下、図面に示す実施例に基づいてこの発明を詳述する。なお、この発明はこれによって限定されるものではない。

【0012】 図2はこの発明を日本語ワードプロセッサに適用した一実施例の構成を示すブロック図である。この図において、1は仮名文字キーや数値キー、変換キー、あるいはファンクションキー等を備えたキーボードであり、各種のデータを制御装置2に入力する。

【0013】 制御装置2は、CPU、ROM、RAM、I/Oポートからなるマイクロコンピュータによって構成され、ROMからなるプログラムメモリ3に書き込ま

れている制御プログラムにより、後述する各種のデータ処理を行う。

【0014】4はCRTディスプレイ装置やLC（液晶）ディスプレイ装置、あるいはELディスプレイ装置からなる表示装置であり、キーボード1から入力された各種の情報を表示する。

【0015】5及び6は郵便番号、住所、氏名、電話番号などの項目名が付された住所データを含む各種のデータをあらかじめ記憶したフロッピーディスク装置のような外部メモリからなるカード型データベースメモリであり、5はレイアウト情報などを蓄えておくフォーマットメモリ、6はデータを格納するデータメモリである。

【0016】7は宛名番号、郵便番号、住所、氏名、見出し、電話番号、備考の各項目名からなる宛名データを記憶する住所録データメモリ、8はカード型データベースの項目名をチェックするためのROMからなる比較項目名データメモリであり、カード型データベースフォーマットメモリ5に記憶されている項目名が住所録データメモリ7に記憶されている住所録データのどの項目名に該当するのの比較項目名データを記憶している。

【0017】図3はカード型データベースフォーマットメモリ5のメモリ構造を示す説明図であり、図に示すように、カード型データベースフォーマットメモリ5には、用紙情報、各種フォーマット情報、及び項目情報1, 2, ..., nが記憶されている。

【0018】用紙情報としては、用紙のサイズ、左右/上下余白等の書式情報やタブセットの情報がセットされている。項目情報1, 2, ..., nとしては、それぞれ項目番号、項目名、項目サイズ、及び項目属性が格納されている。

【0019】図4はカード型データベースデータメモリ6のメモリ構造を示す説明図であり、図に示すように、カード型データベースデータメモリ6には、カード番号1のデータ1からカード番号mのデータmまで、1枚毎に項目1～項目nに対するデータが格納されている。

【0020】図5は住所録データメモリ7のメモリ構造を示す説明図であり、図に示すように、住所録データメモリ7には、宛名データ1から宛名データn毎に、宛名番号、郵便番号、住所、氏名、見出し、電話番号、備考の各項目名の順に住所録データが登録される。

【0021】図6は比較項目名データメモリ8に記憶された比較項目名データの内容を示す説明図である。比較項目名データは、図に示すように、例えば住所録の宛名番号に該当するものは“宛名番号”、“番号”、“NO”であり、住所録の“氏名”に該当するものは“氏名”、“名前”であるというように、カード型データベースの項目名をチェックし、該当する項目を宛名番号に割当てするためのテーブルである。

【0022】制御装置2は、カード型データベースデータメモリ6から、1カード分ずつ順次データを読み出し、

カード型データベースフォーマットメモリ5に記憶されたフォーマット情報に基づいてその項目名をチェックし、比較項目名データメモリ8に記憶された比較項目名データを参照することによって、カード型データベースデータメモリ6の住所データを、住所録データメモリ7の該当項目の位置に複写する。

【0023】次に、このような制御装置2の処理動作の内容を図7から図9に示すフローチャートに従い説明する。

10 【0024】図7は宛名データ変換のメインの処理動作の内容を示すフローチャートである。宛名データ変換においては、制御装置2は、まず、カード型データベースフォーマットメモリ5からカード型データベースの項目名を読み込み（ステップ21）、後述する変換項目の検索及び変換情報のセットを行う（ステップ22）。

20 【0025】次に、データのチェックを行い（ステップ23）、最終でなければ、後述するデータ変換処理を行い（ステップ25）、データがあれば（ステップ26）、ステップ23に戻って処理を繰り返し、データがなければ、読み込んだデータを住所録データメモリ7の宛名データの該当する項目の位置へそれぞれ転送し（ステップ27）、ステップ23のデータのチェックにおいて最終であれば処理を終了する。

30 【0026】図8は変換項目の検索及び変換情報のセットの処理動作の内容を示すフローチャートである。変換項目の検索及び変換情報のセットにおいては、制御装置2は、まず、宛名番号に該当する項目をサーチし、該当する項目があれば（ステップ32）、その項目列をセットする（ステップ33）。また、該当する項目がなければ、カード番号出力フラグをオンにする（ステップ34）。

40 【0027】次に、郵便番号の項目をサーチし（ステップ35）、項目があれば（ステップ36）、項目列をセットし（ステップ37）、住所の項目をサーチし（ステップ38）、項目があれば（ステップ39）、項目列をセットし（ステップ40）、氏名の項目をサーチし（ステップ41）、項目があれば（ステップ42）、項目列をセットし（ステップ43）、見出しの項目をサーチし（ステップ44）、項目があれば（ステップ45）、項目列をセットし（ステップ46）、電話番号の項目をサーチし（ステップ47）、項目があれば（ステップ48）、項目列をセットし（ステップ49）、備考の項目をサーチし（ステップ50）、項目があれば（ステップ51）、項目列をセットする（ステップ52）。

【0028】図9はデータ変換の処理動作の内容を示すフローチャートである。データ変換の処理においては、制御装置2は、まず、カード型データベースから1カード分のカードデータを読み込む（ステップ61）。

50 【0029】次に、宛名番号に変換する項目のデータを取り込み（ステップ62）、郵便番号に変換する項目の

5

データを取り込み（ステップ63）、住所に変換する項目のデータを取り込み（ステップ64）、氏名に変換する項目のデータを取り込み（ステップ65）、見出しに変換する項目のデータを取り込み（ステップ66）、電話番号に変換する項目のデータを取り込み（ステップ67）、備考に変換する項目のデータを取り込む（ステップ68）。

【0030】このようにして、項目名を認識し、変換する項目の順番がどのようになっていても住所録データに変換できるように対応をはかることにより、一般的なカード型データベースから住所録専用のデータベースに簡単にデータ変換を行うことができる。

【0031】

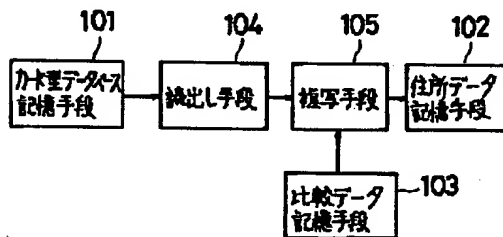
【発明の効果】この発明によれば、項目名をチェックして、カード型データベース記憶手段に記憶された各データを該当する住所データ記憶手段の項目の位置に複写するようにしたので、項目の順番がどのようになっていても、カード型データベース記憶手段に記憶された住所データを、対応する住所データ記憶手段の住所データに容易に変換することができる。

【図面の簡単な説明】

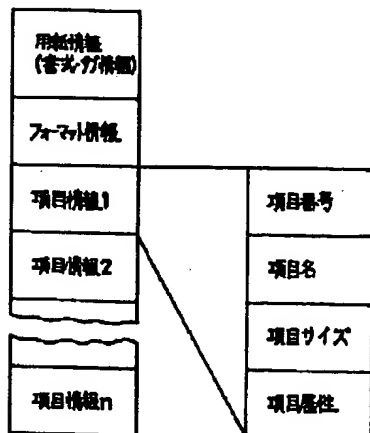
【図1】この発明の構成を示すブロック図。

【図2】この発明を日本語ワードプロセッサに適用した一実施例の構成を示すブロック図。

【図1】



【図3】



6

【図3】カード型データベースフォーマットメモリのメモリ構造を示す説明図。

【図4】カード型データベースデータメモリのメモリ構造を示す説明図。

【図5】住所録データメモリのメモリ構造を示す説明図。

【図6】比較項目名データメモリに記憶された比較項目名データの内容を示す説明図。

【図7】宛名データ変換のメインの処理動作の内容を示すフローチャート。

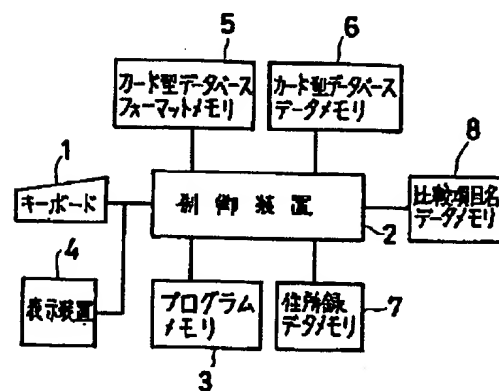
【図8】変換項目の検索及び変換情報のセットの処理動作の内容を示すフローチャート。

【図9】データ変換の処理動作の内容を示すフローチャート。

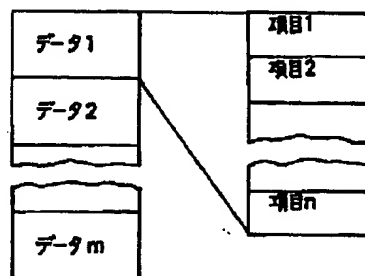
【符号の説明】

- 1 キーボード
- 2 制御装置
- 3 プログラムメモリ
- 4 表示装置
- 5 カード型データベースフォーマットメモリ
- 6 カード型データベースデータメモリ
- 7 住所録データメモリ
- 8 比較項目名データメモリ

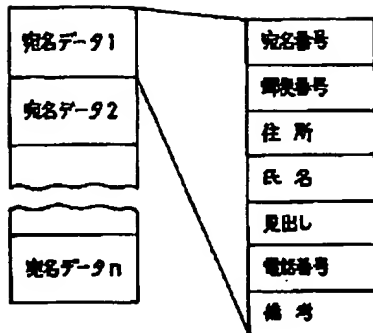
【図2】



【図4】



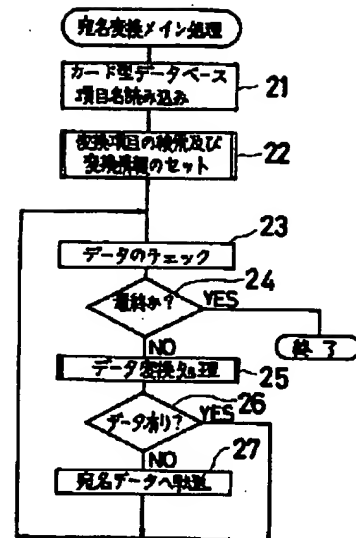
【図5】



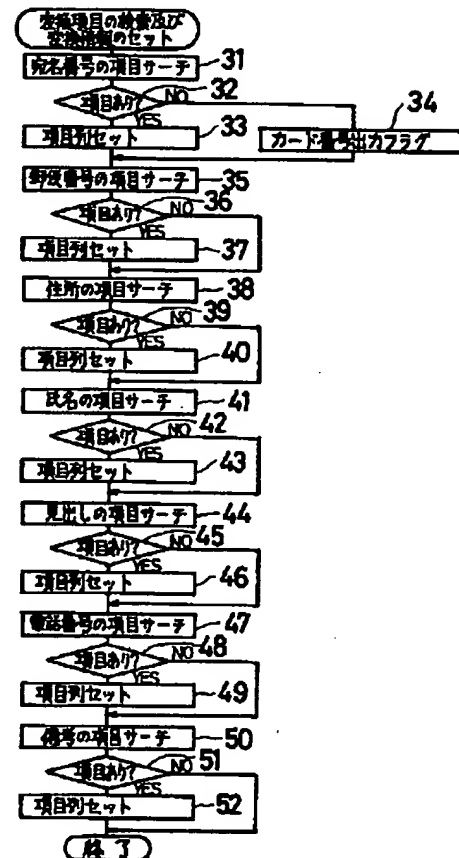
【図6】

1. 宛名番号 宛名番号
番号
NO
ターミネータ
2. 郵便番号 郵便番号
郵便
番号
ターミネータ
3. 住所 住所
ターミネータ
4. 氏名 氏名
名前
ターミネータ
5. 見出し みだし
見出し
ターミネータ
6. 電話番号 電話番号
電話
番号
TEL
ターミネータ
7. 備考 備考
メモ
ターミネータ

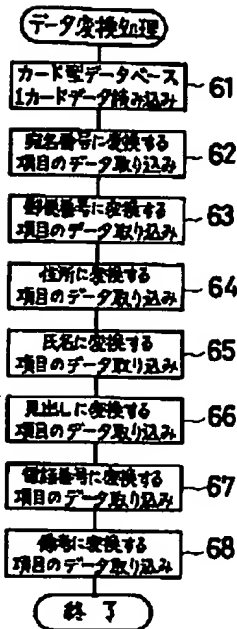
【図7】



【図8】



【図9】



THIS PAGE BLANK (USPTO)